**学生証番号141008**

**Ⅰ期1/9~2/3**

**Cardiothoracic Surgery, Royal North Shore Hospital, Northern clinical school, The University of Sydney**

申し込みから受け入れ決定まで

エレクティブクラークシップで海外実習に参加したいと漠然と考えており、M2の終わり頃から色々な大学の実習に参加した先輩方にお話を聞きシドニー大学に絞って、準備を始めました。

まずTOEFLの申し込みをしました。TOEFLの準備はできる限り早く始めたほうがいいと思います。というのもelectivesの受け入れ枠に限りがあって、2017年分は6月に募集が始まると、瞬く間に枠が埋まっていきました。私は一般外科か心臓外科に行きたいと考えていたのですが、書類が整った7月中旬にはRNSH(Royal North Shore Hospital)の一般外科が全部埋まっており心臓外科の一枠しか空いておらず、第一希望のみを書いて提出したため仮受け入れのメールが来るまでの3週間気が気じゃありませんでした。都心の病院やメジャー科等人気のところから埋まっていくので行きたい病院・行きたい科がはっきりしている人はとにかく早めに準備してください。

順番が前後してしまいましたが、私は1回目に受けた5月末のTOEFLではスコアが足りず2回目の7月頭に88点を超えました。TOEFLの勉強についてはネットで調べたり受けたことがある他学部の友達に聞いたりして、単語帳、過去問、リスニング教材、オンライン英会話のTOEFL speaking対策等を利用しました。

TOEFLスコア取得後はapplication package(シドニー大学のHPのclinical electivesのところに載っています)、大学からの推薦状（国際交流室から取得方法の案内が来ます）、mips　(mipsのHPから申し込めます)を用意してシドニー大学の担当者にメールします。推薦状はTOEFLの点数が必要ですがそれ以外は事前に準備できるので先に済ませておいてもいいかもしれません。Application packageに実習希望病院・実習希望科を書いて提出するのですが、何病院の何科に何枠残っているかはシドニー大学のHPで確認できます。

また、私たちの学年では、学術交流協定の推薦者の選考会が行われた後シドニー大学との学術交流協定が休止となったので、推薦者選考会にも参加しました。推薦者選考会は国際交流室の先生方との日本語面接と英語面接があります。日本語面接では志望動機や学生生活についてなど履歴書に沿った内容を中心に進み、英語面接では志望動機や英語の勉強法などについて聞かれました。英語面接に向けては、履歴書の内容を英語に直したり自分のことについて英語で話せるように調べたり等の準備をしました。

仮受け入れのメールが来たあとはenrollment fee100ドルを支払いワクチン接種の証明を1か月以内に、CRCとNPCを3か月以内に送ります。ワクチン接種の証明はトラベルクリニックで発行してもらえるようですが、私の場合は期限内にお盆等がかぶった都合で外の病院で作ってもらったので10000円ほどかかりました。またCRCは住民票のある都道府県警察で平日に取得しなければならないので、住民票が東京じゃない人は夏休みを利用したり実習の合間を縫って帰省したりと少し大変なので気を付けてください。

書類をすべて送れば受け入れのメールが来るので学費を支払って準備は終わりです。そのあとは心臓外科についての勉強や医学単語の勉強、英会話などで実習に備えました。

滞在先についてですが、私はシドニー大学のHPに載っているホームステイ先から探しました。1月はクリスマスホリデーで家を空けている人が多く7，8件メールしてようやく1件受け入れてくれることになりました。

実習について

初日はオリエンテーションがあり施設の説明等を受け、その後病棟で先生方に挨拶をしました。胸部心臓外科の実習では朝6時半集合で病棟回診とオペに参加しました。

病棟回診をする先生方は若い先生のみで、junior doctor2人・senior doctor1人・doctor2人の5人チームで全患者(ICUと合わせて30人ほど)を診ています。junior doctorは、一人がオペに参加、一人は病棟管理と完全に仕事を分けていて週替わりで交代していました。病棟の患者さんは日本より入れ替わりの回転が速い印象でした。あるCABG施行の患者さんが当日入院・術後３日で退院したことには驚きました。また、日本ではカンファを行ってから回診をしますが、RNSHでは回診をしながら患者さんの前でその患者さんについて話し合っていました。電子カルテとは別に処方や食事摂取量・廃液などについて書かれたファイルがあり(熱型+服薬のようなもの)、doctorとsenior doctorがファイルを片手に患者さんを診て、junior doctorが電子カルテに書き込むというスタイルで、日本より一人一人にかける時間が長かったです。

オペの執刀医は病棟チームの先生よりも上の先生で、第一助手を病棟チームの先生やsenior doctorがしており、その点は日本と同じような印象でした。月火水木がオペ日で、件数にも依りますが、ほぼ毎日1件目にbox changeや胸腺切除など短めのオペ、2件目にCABGや弁置換など長めのオペ、3件目に短めのオペという順でオペが組まれており、件数が多い日は横2室(ちなみにオペ室のことはtheaterといいます)で組まれていました。特にCABG(off-pumpも含めて)や肺がんに対する切除術の件数は多くどちらも週3回ほどずつ行われていました。

肝心の英語についてですが、私の英語力が至らないことに加えて担当の先生の訛りが強かったこともあり大変苦労しました。回診の内容やオペ見学に際してはカルテをのぞくことでカバーしていましたが、先生の指示があまりに理解できなかったため、私が一番聞き取りやすいと感じたjunior doctorの先生が上の先生との間に入ってくださったり、私に話しかけるときはゆっくり丁寧にと先生同士で話し合ってくださったりと、先生方がかなり気を使ってくださいました。大変な迷惑をかけてしまいましたが、優しく受け入れてくださって本当にありがたかったです。また先生方だけでなく、オペ見学中は自由に手洗い参加させてもらえたり見やすいところに場所を用意してもらったりと、看護師さんや技師さんも気を配ってくださいました。

回診の時にsenior doctorが患者さんについて説明してくださったり、オペ中は縫合をさせていただいたり、解剖についてや術式について執刀医の先生が説明してくださったりと大変勉強になりました。大学の胸部外科の実習では小児心臓チームだったので、成人心臓や呼吸器のオペなどを初めて見ることができたのもいい経験でした。また私はバスの都合上回診より15分ほど早く病院に着いていたため、回診までの時間に当日オペの患者さんの診察にも同行させてもらいました。もし質問したりやらせてほしいと言ったりすることが難しくても、とにかく先生の近くにいると教えてくれたり体験させてくれたりしたという印象でした。

生活について

私は一人暮らしの女性の家に一部屋お借りしてホームステイしていました。ホストマザーは仕事が忙しく毎日は会えませんでしたが、こまめに連絡をくれたり、家で会えた時は実習のことを聞いてくれたりと面倒見がよく安心感がありました。食事はキッチンが自由に使えたので基本的には家で作っていました。放課後や土日のお休みは観光に行ったり、同時期にシドニー大学に行っていた友人たちと一緒に過ごしたりしました。友人たちと一緒に過ごした時間は長く、常に安心感をくれました。ずっとそばにいてくれたみんなには感謝してもしきれません。ちなみにですが1/26はAustralian Dayという祝日です。知らずに行ってお祭り騒ぎに驚いたので(街中にぎやかでとても楽しかったです)参考までに。

また、毎週水曜の夜はsocial nightといってelectiveに来ている学生が集まる機会が設けられています。病院では先生が業務に差し支えない程度にしか話すことしかできませんが、留学生同士だとこちらが話すのを丁寧に聞いてくれたり、聞き返すとわかりやすいように説明し直してくれたりするのでここで一番英会話について学べたように思います。私は一緒に心臓外科を回っている学生がいなかったので、様々な国の学生と話せる機会が基調でとても楽しかったです。

準備については思い出しながら書いたので抜けがあったら申し訳ありません。基本的にはHPに書いてある通りに進めて、疑問があればelectiveの担当者にメールをすれば大丈夫かと思います。また、最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった国際交流室の皆様をはじめお世話になったたくさんの方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。